

# ひょうご消防のつどい2015 開催

## 消防団・消防本部の幹部、自主防災組織代表者等が三木市文化会館に集う



式典の様子



発行所  
公益財団法人兵庫県消防協会  
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号  
編集発行人 岸谷義雄  
題字 井戸知事

無事故へと  
気持ち集中  
はっつけよい

平成二十七年十一月二十五日  
(日) 三木市文化会館においてひょうご消防のつどい二〇一五を開催しました。

このつどいは、兵庫県下の消防本部・消防団の幹部等と共に集い、永年にわたり消防業務に従事してきた消防職員・消防団員の功績を讃えた表彰を行うとともに、幹部の研修を行い、士気の高揚と知識・技術の研鑽を深めることを通じて消防人の強固な団結と消防機関の連携体制を強化することを目的に実施しています。

第一部では、常葉大学大学院環境防災研究科教授の重川希志依氏を講師に迎えて講演を行い、第二部はアトラクションとして別所ともえ太鼓会による太鼓演奏・あけぼの保育園幼年消防クラブによる鼓笛演奏、そして第三部では知事表彰及び県消防協会長表彰を行いました。

### 次第

#### 第一部

開会のことば 中西副会長  
国歌吹奏

兵庫県消防協会長あいさつ  
岸谷消防協会長

開催市市長あいさつ  
三木市 藪本市長

講演

「過去の震災にまなぶ〜自助と共助のまちづくり〜」

常葉大学大学院

環境防災研究科教授

重川 希志依

別所ともえ太鼓会

あけぼの保育園幼年消防クラブ鼓笛隊

第三部

環境防災研究科教授

重川 希志依

第二部 アトラクション

別所ともえ太鼓会

あけぼの保育園幼年消防クラブ鼓笛隊

第三部

兵庫県知事式辞 井戸知事

表彰・感謝

兵庫県知事表彰・感謝

兵庫県消防協会長

表彰・感謝

来賓祝辞

石川県議会議長

岡田消防長会会長

受章者代表謝辞

明石市消防本部

消防司令長 松森 誠次

閉会のことば 富田副会長



協会長あいさつ



井戸知事式辞

第一部は、常葉大学大学院環境防災研究科教授の重川希志依氏に「過去の震災にまなぶ〜自助と共助のまちづくり〜」と題して講演をいただきました。災害が発生したときに大きな力を発揮するのは市民の力、そしてつながりである。と阪神・淡路大震災、東日本大震災の出来事を交えながらお話されました。被災から立ち上がるためには三つのハードルがあるそうで、具体的には、いのちを守る、くら



知事表彰



協会長表彰



代表謝辞

しを守る、くらしの再建・復興をはかることをあげられました。実際に現地に行かれていたからこそ、具体的な現地の様子など詳細にお話してくださいました。

第二部のアトラクションでは、まず、別所ともえ太鼓会による太鼓演奏が披露されました。会場全体に響き渡る力強い太鼓の音は、聴いている人の心にも響いたことと思

ます。続いて、あけぼの保育園幼年消防クラブによる鼓笛演奏では、園児たちによるかわいらしい力一杯の演奏を聴くことができました。

第三部では知事表彰及び県消防協会長表彰の授与を行いました。

なお、今年度の表彰の栄に輝いた団体・個人は次のとおりです。

### 兵庫県知事表彰

#### ○表彰旗

高砂市消防団

○竿頭綬

加東市消防団

たつの市消防団

稲美町消防団

#### ○功労章

消防吏員

消防団員

○永年勤続功労章

消防吏員

消防団員

#### ○表彰状

婦人防火クラブの部

個人の部

団体の部

○優良自主防災組織

団体の部

個人の部

### 兵庫県知事感謝

○永年勤続功労賞

○家族の賞

○親子二代の賞

○消防協力者賞

個人の部

事業所の部

### 兵庫県消防協会長表彰

○表彰旗

加古川市消防団

○竿頭綬

姫路市飾磨消防団

朝来市消防団

佐用町消防団

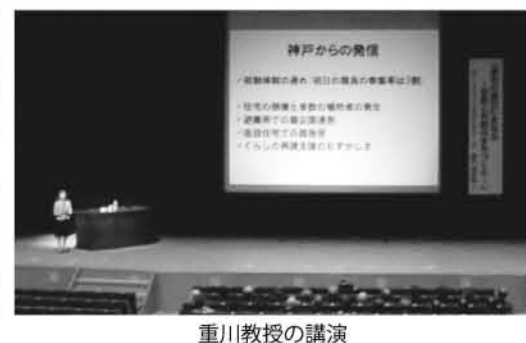
- 功績章 一二九名
- 精績章 二一八名
- 勤続章 四四一名
- 精勤章 四三一名
- 兵庫県消防協会長感謝
- 家族の賞
- 三〇年以上 五六名
- 四〇年以上 二三名

井戸知事式辞  
ひょうご消防のつどい  
二〇一五に寄せて

安全は 皆んなの願い  
取り組む仲間  
創りあげなん  
地域ごと



あけぼの保育園幼年消防クラブによる鼓笛演奏



重川教授の講演

別所ともえ太鼓会による太鼓演奏

# 第21回 全国女性消防団員活性化 佐賀大会

葉隠の里 ようこそ佐賀へ 明日への創造 ～地域・生命・未来を守る女性消防団～

第21回

## 全国女性消防団員 活性化佐賀大会開催

(公財) 兵庫県消防協会事務局



大会旗入場



開会式での岸谷会長  
寺田 信雄  
岸谷 義雄  
東田 慎悟



開会式での岸谷会長 (左から3人目)

第二一回全国女性消防団員活性化佐賀大会が、平成二十七年一〇月二十九日(木)に佐賀市文化会館にて開催され、大会に引き続き情報交流会が佐賀市内のマリトピアという会場で開催されました。

大会は、全国から女性消防団員を始め、消防職・団員が参加し、兵庫県からも岸谷会長以下総勢五八名が参加しました。

オープニングの佐賀広域消防局消防音楽隊の演奏に続き、開会式が行われ、大会旗入場、開会宣言、国歌斉唱、主催者挨拶、開催県知事挨拶、開催市長挨拶、来賓祝辞と進行し、続いて『地域防災力強化と女性消防団員の役割』というテーマでパネルディスカッションが行われました。

そして午後からは、四団体が活動事例発表等を行い、その後、バルセロナ五輪金メダリスト古賀稔彦氏により『夢の実現へ挑戦することの大切さ』という演題で記念講演が行われ、最後に大会宣言と次回開催地の北海道への大会旗の引継が行われ、閉会宣言により大会は幕を閉じました。

閉会後に開催された情報交流会では、当県丹波市消防団の皆さんが、近畿ブロック代表で『のど自慢大会』に出場され、丹波市音頭にあわせて救急法の手順を説明して下さり、会場を大いに盛り上げ、盛会のうちに全てのプログラムが終了しました。

兵庫県からの大会参加団体は次のとおりです。

- 神戸市灘消防団
- 神戸市北消防団有馬支団
- 明石市消防団
- 芦屋市消防団

- 伊丹市消防団
- 豊岡市出石消防団
- 小野市消防団
- 三田市消防団
- 丹波市消防団
- 淡路市消防団



のど自慢大会出場の丹波市消防団の皆さん

# 第34回 全国消防殉職者慰霊祭

記事・(公財)兵庫県消防協会

第三回全国消防殉職者慰霊祭が、平成二十七年九月一日、日本消防会館ニッショーホールにおいて、厳粛に執り行われました。

本慰霊祭において合祀されている御霊は、生前に郷土愛の精神に燃え、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、身を挺し消防・救急活動を行い不幸にも殉職された全国の消防団員・職員及び一



「閉式のことば」を述べる岸谷会長



第34回全国消防殉職者慰霊祭

般協力者の方々です。祭壇には、今回あらたに六柱の御霊が合祀され、あわせて五、六八八柱が奉納されました。

式典には当協会から、岸谷会長をはじめ遺族四名が参列し、御霊の奉納が行われ、黙祷を捧げた後、秋本日本消防協会長の式辞、安倍内閣総理大臣、高市総務大臣から追悼のことばに続き、遺族代表による追悼のことばがありました。

その後は参列者が故人の冥福を祈り献花を行い、江戸消防記念会から鎮魂の歌(木遣り)が披露され、岸谷会長(日本消防協会副会長)による「閉式のことば」で、式典は厳かに滞りなく終了しました。

# 秋季全国火災予防運動の実施(消防庁予防課)

## 実施期間

十一月九日(月)から十一月十五日(日)

## 目的

この運動は、火災が発生しやすい時季を迎えるに当たり、火災予防思想の一層の普及を図り、もって火災の発生を防止し、高齢者等を中心とする死者の発生を減少させるとともに、財産の損失を防ぐことを目的とします。

平成二十七年  
全国統一防火標語

## 無防備な

心に火災が  
かくれんぼ

## 重点目標

- ① 住宅防火対策の推進
- ② 放火火災防止対策の推進
- ③ 特定防火対象物等における防火安全対策の徹底

- ④ 製品火災の発生防止に向けた取組の推進
- ⑤ 多数の者が集合する催しに対する火災予防指導等の徹底

## 住宅防火 いのちを守る七つのポイント

- 〈三つの習慣〉
- ・寝たばこは、絶対やめる。
- ・ストーブは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ・ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。
- ・逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。
- ・寝具、衣類及びカーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- ・火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器等を設置する。
- ・お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。

# 無防備な

# 心に火災が

# かくれんぼ

秋の全国火災  
予防運動  
11月9日~11月15日

あわかな

制作 一般財団法人日本防火・危機管理促進協会  
後援 消防庁 全国消防長会



このポスターは、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。





# クール！稲野 九・一二防災フェア開催 伊丹市女性消防団 市民向け救急講習会指導デビュー

記事..(公財)兵庫県消防協会

平成二七年九月一二日(土)、秋晴れの爽やかな空の中、大手前大学・大手前短期大学いたみ稲野キャンパスにて、稲野自治会主催の「クール！稲野九・一二防災フェア」が開催されました。このイベントは、防災について楽しく学ぶ地域密着型のイベントとして、お年寄りから小さなお子さんまで、多くの方々が来場されました。

神戸大学名誉教授室崎先生による防災講演会やパネルディスカッション、各種展示やレスキュー体験、炊き出し訓練等、盛りだくさんの内容で、参加者は防災・減災に対する意識や心構えを楽しく学び、考えるきっかけを持つことができました。

このイベントにおいて、伊丹市女性消防団員の皆さんは、市民向けの救急講習会指導デビューを果たしました。平成二六年一〇月一日に発足した伊丹市女性消防団員の皆さんは、このデビューの日を迎えるまで、「応急手当普及員」の資格を取得し、伊丹市消防団で毎年実施している救急研修会の講師を務めるなど、日々努力してこられました。

今回の、伊丹市消防局の方々と合同で市民の皆さんへの指導にあたられ、最初は緊張した面持ちで、積極的に市民の皆さんと接することは難しそうでしたが、消防局の方々の説明をお手本に、徐々に女性消防団員の皆さんの本領を発揮され、参加者一人一人に笑顔向けながら、率先して指導を行われていました。心肺蘇生法やAEDの使い方や身近な人の命を守る第一歩です。市民の皆さんも高い関心を持っておられ、たくさんの方々が救急講習会のブースへ訪れ、普段疑問に思っていたも、なかなか聞く機会が無い素朴な疑問など、色々質問されていました。

救急講習会を終えられた女性消防団員の皆さんに感想をお聞きしたところ、「緊張した」「良い機会になった」という感想と共に、「楽しかった」という感想も聞くことができました。人に伝えることはとても難しいことです。日々の努力と多くの機会を経験することで知識を重ねることができると思いますが、「楽しい」と思える気持ちがあるからこそ前進することができます。この「楽しかった」という気持ちを大切に、市民の皆さんの安全、安心を守るため、今後も積極的に活動していただきたいと思っております。

伊丹市女性消防団員の皆さんのこれからの活躍を、ぜひご期待ください!!



伊丹市女性消防団員の皆さん

伊丹市女性消防団員の皆さんは、市民向けの救急講習会指導デビューを果たしました。平成二六年一〇月一日に発足した伊丹市女性消防団員の皆さんは、このデビューの日を迎えるまで、「応急手当普及員」の資格を取得し、伊丹市消防団で毎年実施している救急研修会の講師を務めるなど、日々努力してこられました。



消防士に変身中



伊丹市危機管理室の展示ブース



煙体験ハウス



家族でCPRを学びます



小さな子どもさんもCPR実践中



救急講習受講後はグッズをプレゼント



レスキュー体験

# 第80期 初任教育 査閲

## 半年間の訓練成果を披露！

声を出せ！ 市民の命と仲間のために



救助訓練

### 第八〇期初任教育生スローガン

# 「声を出せ！市民の命と仲間のために」を 胸に消防人として第一線へ！！

九月二十六日（土）、兵庫県消防学校にて第八〇期初任教育査閲が執り行われました。

四月に県内各消防本部から入校し、消防職員として必要な基礎知識、技術の習得など、即戦力として消防活動に対応できるよう、半年間の厳しい訓練を経て、一六八名がこの査閲の日を迎えました。

この半年間、初任教育生たちはたくさんの方々に支えられてきました。そして、つらく苦しい時間を共に過ごした仲間とは、固い絆を結ぶことができました。そんな第八〇期初任教育生たちは「声を

出せ！市民の命と仲間のために」というスローガンを掲げました。教育生たちの「声」は自らを奮い立たせ、仲間を勇気づけ、市民を励ますという重要な役割があります。安全確認の為にみがかすことのできない「声」。訓練中は常に大きな「声」を出すことを意識して半年間過ごしてきたそうです。卒業後も「声」の重要性を忘れることなく現場活動に励んでいくという決意のこもったスローガンです。

遅い姿に成長した第八〇期初任教育生たちは、「全ての方々から信用される消防士になります。」と宣言し、九月二十九日（火）に卒業式を終え、消防人生のスタートを切りました。

それぞれの所属で現場の最前線に就くことになりすが、ひようごの「安全」と「安心」の為、自身の命も大切に、職務に邁進していただきたいと思えます。

披露しました。

遅い姿に成長した第八〇



一斉放水後整列



岸谷会長から激励のこたばを受ける教育生達



岸谷県消防協会長による激励のこたば

### ～卒業式～



卒業式にて学校長式辞



卒業式にて 第80期初任教育生達



答辞

記事：兵庫県消防協会  
写真提供：(有)米田フォト

# 消防団。ピックアップ

## 『経験を生かした実践訓練』

### 赤穂市消防団

赤穂市は兵庫県の西南端に位置し、南は瀬戸内に面し、北は緑の山々、市の中央を清流千種川が流れ、年間を通じて天候に恵まれ、気候温暖なまちです。

赤穂市消防団は、団本部（女性部）と二五ヶ分団で組織され構成人員は六〇六名（平成二七年一〇月現在）で地域の安全安心の確保のため防火防災活動に従事しています。

我がまち赤穂は「忠臣蔵のふるさと」として全国的に知られており、毎年、義士討ち入りの一二月一四日には赤穂義士祭が催され多くの観客のみなさんにお越しいただいています。



放水

消防団長は「実践に即した訓練が大切」と、団幹部に指示しており、この火災から四ヶ月後の九月二日に、林野

反面、近年では、残念なことで、大規模な林野火災が幾度となく発生し、平成二六年五月の林野火災も、近傍の山陽自動車道が通行止めになるなど、みなさんの記憶に残っているのではないのでしょうか。

新聞・テレビで連日ニュースとなった火災の原因はパーベキューで使用した炭火の柱撰な後始末によるものでした。消防団は全分団を出動させ、二日間で延べ六五〇名を動員、航空機による空中消火応援も受け消火にあたりました。



炊出し

火災防衛訓練を実施しました。訓練場所を五月の火災現場から千種川を挟み、対岸の林野としたため参加団員は対岸に焼け跡の黒い山肌が見え、当時の記憶と相まって一層真剣に取り組むことができました。

訓練には団員三〇〇名、消防ポンプ車一五台が参加し、麓の水利部署位置から頂上付近の放水位置まで、総延長距離二・五キロメートル、標高差約二〇メートルのホース延長を行い、ポンプ車による中継放水隊形をとる過程で幹部団員は、団員のホース延長時の操作要領や安全管理に気を配り、また、平成二五年に整備されたデジタル無線設備の大規模災害時の活用方法の検証、女性団員と地元住民による炊き出しなど、多くの訓練テーマや課題をもって実践的訓練が行われ、訓練開始から約二時間後、中継放水と放水隊形が整い山頂での放水が行われ所期の訓練目的は達成されました。



ホース延長



## 『地域に密着した、消防団活動の実践』

### 姫路市安富町消防団

名勝「鹿ヶ壺」で有名な姫路市安富町を管轄する安富町消防団は、平成一八年三月に姫路市と家島町、夢前町、香寺町、安富町の合併に伴い姫路市の消防団となり、平成二二年四月には団組織を再編し、一団本部と安富南分団・安富北分団の二分団となり、定員は一六〇人です。

消防団の区域は姫路市域の西北部、姫路西消防署の管轄区域内のうち安富南小学校区域と安富北小学校区域の二分団には一車庫・一車両が配備されています。

安富町消防団の年間行事予定は、四月の新人消防団員入団に始まり、六月の水防訓練、分団長会議、八月の視察研修、特殊無線技師養成講習受講、九月の姫路市総合防災訓練、一〇月の新人団員教育訓練、十一月の秋季火災予防運動・兵庫県消防学校入校・姫路市幹部教育訓練・分団長会議、一二月の年末火災特別警戒、一月の姫路市消防出初式・応急手当指導員養成講習・若手消防団員意見交換会、二月の分団長会議、三月の春季火災予防運動等があります。

安富町消防団の区域は中山間地域で管轄面積が広く、常備消防の姫路西消防署・飾西出張所・林田出張所から遠い地区があるので、消防団としての使命感に燃え「市民の安全・安心」に寄与できるように分団員が自己研鑽に励んでいます。また、人数に限りのある消防団の活動には活動にも限界があるので、各地域の住民に対しても防火・防災指導等も行い、地域での防災力向上にも努力し、地域に密着した消防団活動を日々実践しています。



安富町消防団員の職業状況でも団員の大半がサラリーマンで、昼間は仕事に出て留守のため、日中も自宅に居られる方で組織されている自主防災組織の構成員や婦人会員等と連携して、地区に設置してある消火栓と消火器具格納箱内のスタンドパイプ・ホース・筒先を使用して放水する訓練等も実施し、地域一帯となって有事に備えています。

また、各分団の区域内での諸行事にも消防分団として積極的に参加していますが、その中でも特に大きな行事の一つに、姫路市安富町安志にある安志稲荷神社での初詣に伴う火災・救急事故の警戒等があります。

安富町消防団は、一団本部・二分団の消防団ですが、経験豊かな梅田団長を先頭に、これからも地域に密着した消防団活動を地道に積み重ねていきます。

# わが町の団長さん

## 「郷土愛」

三田市消防団

竹花 庄美



三田市は兵庫県南東部、六甲山系の北側に位置し、総面積二一〇平方キロメートル、人口一十四万四千人で、農村と都市の二つの顔を合わせ持つ

ています。

田園都市として、豊かな環境と穏やかな気候に恵まれた農村部と、大規模開発により発展した市街化区域を、火災、水害、地震等のあらゆる災害から守っているのが竹花団長を筆頭とする三田市消防団七〇四名です。

竹花団長は昭和四六年の入団以来、分団幹部、副団長を歴任され平成二六年十一月一日に団長に就任されました。竹花団長は日頃から、郷土愛と消防人としての使命に燃え、日々活躍しておられ、災

害時は率先して指揮統率を計っておられます。また、平成二七年八月には消防大学校団長科に入校され、幅広い知識を身につけられ、消防団行事にも力を注がれており、常に三田市消防団活性化の事を考えられておられます。

団長に就任され、間もなく一年になるうとしていますが、今後も三田市消防団七分団七〇四名の指揮を執り、自分たちのまちは自分たちで守り、市民が安心して安全な生活ができるよう日々精進されています。

# がんばってます、女性消防団員

## 『淡路市消防団に総務大臣感謝状!』

### 淡路市消防団

女性消防隊を結成し、団員数が大きく増加したことが評価され、淡路市消防団に総務大臣から感謝状が贈られました。消防団活動の功績をたえる感謝状の贈呈は平成二六年度から実施されており、平成二七年度は全国の二二団体が対象となりました。淡路市消防団では四月一日に女性消防隊が発足し、二六人の女性団員増加が全国の上位五団体に入ったことで、表彰団体に選ばれました。

津田女性隊長は「ひしひしと責任の重さを感じる。女性の役割を果たしながら、災害予防の啓発ができるよう、訓練に励みたい」と心境を述べられました。また、女性隊の愛称が、淡路市津名地域に伝わる静御前伝説と女性らしい語感、火を『鎮める』などをイメージした「しずかファイヤーズ」に決まるなど、より一層の活躍が期待されます。

また、五月には淡路市消防団幹部新人訓練が実施され、初めて女性消防団員が参加しました。暑い日差しが照る中、消防職員から各個訓練や水消火器の使用方法を学びました。最後には放水訓練にも参加し、男性消防団員が見守る中、的をめぐけてホースを持って放水訓練に参加し、消防団員らしい勇ましい姿を披露してくれました。

地域住民への心強い女性消防隊になれるよう、日々、研鑽を積んでいきます。



淡路市消防団に総務大臣感謝状



放水!

# われら若手消防団員

## ～「団結力」下福班!!～

神戸市西消防団

平野支団第二分団下福班 藤田 慎介



私は、神戸市西消防団平野支団第二分団下福班に所属しています。私が消防団に入団したきっかけは、地域の団員の方の勧めと以前消防団員だった父親からの勧めでした。小さい頃から、父親が消防団に行っているのを知っていた私は、いざ自分も住んでいる地域を自分で守っていかなければならないと感じていたものもあって、入団することを決めました。消防団の活動は、月に数回集まり、ポンプの点検や近くの川で放水訓練を行うほか、年末には年末特別警戒を行うなど、自分たちの住んでいる地域を守っています。入団した最初の年は何も分からず、「本当にこれでいいのだろうか」と不安に思っていました。何も分からない私に、丁寧に教えて下さる先輩方に関わることで少しずつ消防団に馴染んでいきました。また、私が所属している下福班は、積極的に地域の行事に参加しており、地域のために一生懸命関わる先輩たちの姿を見て、他の地区にはない団

## ～消防団に入団して～

神戸市北消防団

有馬支団第一分団 下浦 成章



【入団の経緯】 私には、入団するきっかけとなる、ある出来事がありました。それは以前、自宅が火災に遭った時のことです。早朝にもかかわらず消防署員はもろろんのこと、たくさんの消防団員の方々が懸命に消火活動をする姿を目の当たりにしたことです。消防署員の方々や消防団員の皆さんにご迷惑をお掛けしたという思いと、私もこれから何かできることがあるならば...という思いで入団しました。【消防団に持つイメージとギャップ】 入団前、何度か消防団員の消火活動を見る機会があり、勇壮で華やかなとまではいかないまでも、その活

動はカッコイイものと想像していましたが、しかし、いざ入団してみると有事の際にいつでも消火活動や行動ができるよう厳しい訓練や準備が行っており、見えないところでの地道な活動がほとんどです。しかし、それがとても大事であることが分かりました。【めざすべきもの】 自分が先輩から教えてもらった消防技術や知識を練磨し、後輩に傳承していくことは勿論、地域住民の方に細かな防災指導が行えるように自分自身のスキルアップに心掛けます。そして、二年前の神戸市消防団小型動力ポンプ操法大会では良い成績を上げられなかったので、次回こそは必ず優勝してみせます!

員たちの熱意というものも感じるようになりまし。今では、自分もいつかは先輩たちのようになって、下福班を引っ張っていかなければならないと強く思っています。入団して三年目の今、入団して本当に良かったと思っています。それは、私たちの消防団の「団結力」というものを感じたからです。そのきっかけとなったのが、地域の行事である祭りでした。消防団が警備を行いなから、できる範囲で積極的に参加し、地域を盛り上げました。その姿勢を見たときに消防団の「団結力」というものを感じることができました。また、地域と関わることで、たくさんの人との関わりがふえたことも良かったと思います。消防団の活動を通じて、地域と消防団との和を大切にしていることが素晴らしいと思います。自分たちの地域を守るだけでなく、自分たちの地域を盛り上げようとする下福班の「団結力」を胸にこれからも頑張っていこうと思います。

# 地域のお知らせ

淡路市

女子プロ野球にご声援よろしくお祈いします



兵庫ディオオーネの皆さん

女子プロ野球創設に向け動き始めたのは、二〇〇九年。毎年、兵庫県丹波市で開催されている女子の硬式野球全国大会を観たことがきっかけでした。

当時の女子硬式野球部は、全国にわずか五校。誰にも知られることなく、甲子園さえも目指すことのできない存在でしたが、必死に白球を追いかける女子野球選手の姿に心を打たれ、「応援したい」との想い一つで女子プロ野球リーグが誕生しました。

今では、女子硬式野球部は二〇校を超え(創設予定含む)、夢の舞台である女子プロ野球を目標に着実に全国へ広がっています。

現在、女子プロ野球球団は、全国に四球団が存在し、うち一球団(東北レイア)は育成球団。今シーズンは三球団(兵庫ディオオーネ・京都フローラ・埼玉アストライア)でリーグ戦を行いました。



地域に根ざした球団づくりを目指している、女子プロ野球リーグを運営する株式会社わかさ生活(兵庫ディオオーネ)と淡路市は、本年三月女子プロ野球史上初となるホームタウン協定を締結し、兵庫ディオオーネ選手・指導者・スタッフら全員が淡路市に住所を移し、淡路市民として『総合優勝』を目指して戦いました。



白球の行く先は…?

女子プロ野球の認知度はまだまだ高いとは言えませんが、選手たちがグラウンドを全力で駆け回り、輝きを放つ姿をぜひ球場でご覧いただきたいと思っています。

現在、淡路島を本拠地として活動を展開している兵庫ディオオーネですが、今後は、兵庫県に根ざした球団として成長し、県民のみならずから応援してもらえる球団となるよう日々活動をしていますので、選手たちへのご声援よろしくお祈いします。

## 国道一七九号(徳久バイパス) 徳久トンネル 消防訓練の実施!

平成二七年一月八日(日)、佐用郡佐用町下徳久国道一七九号(徳久トンネル)において、トンネル内事故を想定した消防訓練が実施されました。

この訓練は、JR播磨徳久駅周辺における交通渋滞の解消と、沿道環境の改善を図るため、国道一七九号(徳久バイパス)が平成二七年一月二日に開通することに先立ち、兵庫県西播磨県民局(光都土木事務所)を主催として行われました。

佐用町消防団南光支団からは第一機動分団、第二機動分団、第一分団、第七分団の皆さんが参加されました。

訓練の内容については次のとおりです。

〔参加機関〕兵庫県警機動隊・兵庫県警航空隊・兵庫県佐用警察署・佐用町・佐用郡医師会・佐用町消防団南光支団・上津中学校・西はりま消防組合

〔訓練想定〕トンネル内で軽乗用車と乗用車が正面衝突し、後続のマイクロバス(通学用)が追突した事故により多数の負傷者が発生するとともに、車両火災による山林への延焼防止を想定した訓練



訓練の様子

## 編集後記

朝夕冷え込むようになり、冬はもう目の前ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月号では、ひょうご消防のつどい二〇一五の記事を一面に掲載しております。当日は多くの方にご参加いただき、充実したイベントを開催することができました。皆様のご支援とご協力、誠にありがとうございました。

二面にも掲載しておりますとおり、第二回全国女性消防団員活性化佐賀大会が開催されました。お互いの消防団の情報を共有できる貴重な機会になったことと思います。

これからの時期は空気が乾燥し、また、暖房器具を使う機会が多くなることから、火災が非常に発生しやすくなります。火の取り扱いには十分ご注意ください。